

農林抄

先頃、農水省が発表した諫早開門アセス準備書素案に、開門方法に依じて82億円から1077億円もの対策工事が示された。政府は、概算要求に盛り込むために、開門への賛否の分かれる関係県や農漁業者らから意見を聴取し、今夏にも開門方法を決めたいとしている。しかしこのアセスを意見調整のための科学的・客観的材料とするには問題点が多すぎる。却って議論を混乱させる要因になるのではないかと危惧されるのだ。

03年に農水省は、今回と同様の開門費用の試算を行ったことがあり、その際は19億円だった常時排水ポンプの設置費用が47億円に増額されている。背後低平地の排水路先端に取り付けられている樋門は、開門中は閉めることになるが、その時に起こる排水路の水位上昇を防ぐのにポンプが必要だからと言うのだ。しかし樋門には、招き戸(フラップゲート)と呼ばれる扉がついており、海側の水位が低ければ開き、高くなると自動的に閉まるという仕掛けになっている。これを再び利用することにすれば、常時排水ポンプは不要になるはずだ。

目に余る諫早開門費用の水増し

閉め切られる以前は海面に面していたが、当時浸透塩害は起こって

また03年には182億円が計上された洪水時排水ポンプの設置に、今回は291億円がかかることされた。必要となるポンプ容量はほとんど同じだが、容量当たりの単価が約2倍に水増しされている。しかも、その必要ポンプ容量の決め方も常識外れだ。突発的な洪水が長時間継続する間には、潮位が調整池水位より上昇する時間帯も低下する

時間帯も生ずるが、アセスでは常時全開門という前提を機械的に適用し、潮位が上回る時間帯にも排水門を開放して人為的に調整池水位を高めたうえで、ポンプ容量の試算を行っているのだ。こうした防災上の問題がある時は一時閉門すれば調整池水位を低めることが可能となり、ポンプは多少なくとも済むし、同時に内部堤防の嵩上げ等の費用56億円も削減可能となろう。

さらには海水導入で直ちに期待できる水質改善、またはアオコやユスリカの消滅といった効果面にはほとんど触れることなく、農民や漁民の不安を徒に煽るための予測が散りばめられている。背後低平地の土壌に、開門後は塩分が浸透すると言っているのだ。しかしこれは、諫早湾が堤防で

なかつた場所である。また開門後は、水門周辺で生ずる速い流速のために洗掘が起こり、濁りが漁場を襲うとも予測する。その漁業被害を防ぐためとして水門周辺の海底に設置済みの護床工を大規模に張り替える工事に395億円を予定するのだが、これは深掘れが予測される局所に簡単な捨て石工を施せば済む話でしかない。

02年の短期開門調査の際に実際に要した費用は8・6億円だったが、今回は同じ制限的開門に82億円と試算されている点を見るだけでも、大幅な過大算出は明らかである。農水省はこうした疑問への説明責任を果たしながら、準備書の修正を行わなければならない。

週刊農林

(羽生 洋三・有明海漁民・市民ネットワーク)
七月五日・第二二二二号

東日本大震災復興構想会議の提言

もくじ

東日本大震災復興構想会議の提言 「減災」を考えるまちづくり …… 4	
百家争鳴の割に「凡庸」	
地域主権による農業・農村整備の確立Ⅶ 市民農園を考える(2) …… 8	
東京大学大学院新領域創成科学研究科教授 山路 永司	
内閣府 2010年度食育白書 基本計画目標7項目が未達成 …… 10	
水産復興マスタープラン 水産業復興へ優先順位示す …… 12	

農林水産省版

水産 …… 12	食品・安全 …… 16
構造・経営 …… 13	環境・技術 …… 17
畜産 …… 14	林野 …… 18
米麦・水田 …… 15	
畑作・果樹 …… 16	

ホームページ <http://nourin.vis.ne.jp/>